



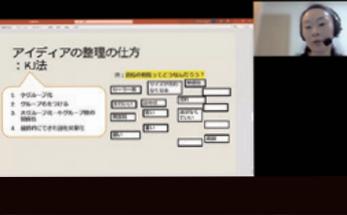
KANSAI UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching & Learning

Newsletter



関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

December 2021

vol. 37



選択と決断の機会を学生に

教育推進部教授 三浦 真琴



将来、何になりたいですか。折りに触れて学生に問いかける。教師と答える学生は存外に多い。その答えを耳にしたうえで、再度、同じ質問を投げかける。声が届かなかったのかと案ずる表情で、学生は同じ答えを繰り返す。さらに同じ質問を投げると、いかなる答えが求められているのかが分からずに口ごもるか、その答えに偽りはありませんとばかりに大きな声で同じ答えを口にするか、いずれかである。

同じ質問を繰り返すのは学生の答えが不十分だからである。教師には教育段階や科目によって幾通りもの表現が可能である。しかし、問いに対する答えが細分化されたものではないという理由で質問を繰り返すのではない。学生がどのような教師になりたいと考えているのか、それを答えてほしいのである。

なぜ、教師と答えるだけでは不十分なのか。中学校の国語科教師と答えたとして

も、それを不十分だと考える理由は何なのか。

このような教師になりたいという目的を定めれば、そこに辿り着くために、いつ、いかなるが必要となるのかを考え、通過点となる目標を設定できる。さらに設定した目標の妥当性を検証しては再設定することも可能になる。目的に達するまでに幾重にもつらなる選択と決断の機会が用意されるのである。その営みがなければ目的に近づくことはかなわないはずだ。

なりたいた教師像を描かない学生は、教師になるという目的を教員採用試験に合格するという通過点に置き換えてしまう。採用試験に合格した時点で目的を失うのである。教壇に立つてからは、選択や決断を求められる機会がいやましになるが、目的達成のために選択や決断を繰り返す体験をしなかった人間には、それを乗り越える耐性が育っていない。公立学校の教

員のなかで20代後半の教員の離職率が最も高い理由は、残業が多いなどの過酷な労働環境にのみあるのではないかもしれない。

ケンブリッジ大学のBarbara Sahakian教授によると、人は一日に最大で3万5000回の決断を下しているらしい。莫大な決断の回数を低減するために適切なルーティンを持つことを勧める向きもあるが、なに、ハムレットの言うように「人生は選択の連続」なのだ。選択とは目的に向かい努力することである。そのことによるのみ人生が意味あるものとなるのは先哲の言葉である。学生の選択する専門や希望する職業の如何を問わず、私たち教師は学生に選択と決断の練習をする機会を日頃の授業の中でも提供する必要がある。それが次なる舞台へと歩む学生のトランジションを支えることになるはずだ。キャリア教育の原点はそこにある。

活動報告

第25回関西大学FDフォーラム 「オンライン授業における講義映像の制作・活用 —教育番組制作者・e-Teaching Award受賞者から学ぶ!—」を開催しました。

日程：2021年7月3日(土)

教育開発支援センターでは、7月3日に第25回関西大学FDフォーラム「オンライン授業における講義映像の制作・活用—教育番組制作者・e-Teaching Award受賞者から学ぶ!—」を開催いたしました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により対面授業が実施できず、各大学とも「緊急的な遠隔授業」を実施することとなりました。2021年度は、各大学が多様な受講スタイルに対応するべく遠隔授業に関する検討を開始しています。通学制の学部による卒業所用単位数124単位のうち60単位まで遠隔授業(メディア授業)により修得可能とする上限に対して、質の高い遠隔授業のあり方を模索し始めている大学も多いのではないのでしょうか。そこで今回のFDフォーラムでは、遠隔授業のうちオンデマンド授業の先進的な事例

から、教育効果の高いコンテンツの作り方・コツ・ポイントなどを学び、オンデマンド授業における授業映像の制作・活用方法の知見を共有することを目的に開催いたしました。

フォーラムでは、まず、宇治橋 祐之氏(NHK放送文化研究所)より、教育番組制作者の観点から、講義映像と教育番組の対比や映像分析、そして映像利用に関わる著作権についてご講演いただきました。次に、森達哉氏(早稲田大学理工学術院教授)より、「Good Practiceの共有」と題して、事例報告とともに実際の講義映像を紹介いただきながら、効果的なオンデマンド動画の作成方法についてご講演いただきました。

その後のパネルディスカッションでは、岩崎千晶(関西大学 教育推進部

准教授)がコーディネーターとなり、お二方(宇治橋氏、森氏)に対して視聴者から寄せられた質問として、映像で取り上げるべき内容、表現、構成、ハード面での操作、教職員の能力育成、大学のサポート体制を中心に意見交換を行いました。講演内容をさらに掘り下げた実践報告やご意見をいただき、盛会のうちに終了しました。

(教育推進部准教授 岩崎千晶)



パネルディスカッションの様子

2021年度秋学期 アカデミックスキルワンポイント講座を実施しました。

日程：2021年9月29日(水)～12月8日(水)

ライティングラボでは、大学での学習や研究に必要なアカデミックスキルを、昼休みの30分間で身につける授業外講座として、アカデミックスキルワンポイント講座を開催しています。2021年度の秋学期は、表の通り17回の講座を開催しました。当初はオンラインのみで開催しましたが、対面授業の再開後は、オンラインと対面の両

方で実施するハイフレックス型で開催しました。また、今学期は初の試みとして、博士課程前期課程の学生を主な対象とする講座や、ライティングラボのチューターが担当する講座を実施しました。講座の際に収録した動画と資料は、春学期開催分も含めライティングラボHPの「ワンポイント講座」(<https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/>

onepoint-advice/)で公開しています。ぜひご活用ください。

(ライティングラボ アカデミック・アドバイザー 大西洋)

ライティングラボ HPの
「ワンポイント講座」
<https://www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/onepoint-advice/>



●卒論・アカデミックスキルコース

日程	テーマ	講師
9月29日	先行研究の整理法	大西洋
10月6日	話を聞くコツ・質問するコツ	藤田 里実
10月13日	インタビューの方法	
10月20日	資料の探し方	チューター
10月27日	論文の読み方	
11月10日	要約のコツ	
11月17日	初めてのアンケートの取り方	佐藤 栄晃
11月24日	アンケート結果の分析の考え方	
12月1日	データの「平均」の見方	
12月8日	「グラフ」の読み解き方	

●クリティカルシンキングへの誘い

日程	テーマ	講師
11月12日	化石燃料を燃やすと大気が汚れるの？	山本 敏幸 濱本 久二雄
11月19日	もし化石燃料を使い続いたら、地球上の人類は終わるの？	
11月26日	地球の表面温度は上がっているの？どこまで上がり続けるの？	
12月3日	CO ² は本当に地球上の表面温度を上げるの？地球温暖化の原因なの？	

●修士論文ワンポイント講座

日程	テーマ	講師
10月29日	先行研究の整理とデータベースの使い方	岩崎 千晶
11月12日	大会予稿集の書き方	藤田 里実
11月19日	学会での研究発表	大西洋

学生ラーニングcaféを実施しました。

日程：2021年7月7日(水)、7月14日(水)

春学期のラーニングcafé第3回・第4回では「お悩み相談会-コロナ禍における新しい大学生生活の過ごし方-」を実施しました。

例年ラーニングcaféではアカデミックスキルを中心とした企画がメインですが、今回はオンライン講義などが中心となり大学に行く機会が減り、なかなか対面で相談する機会がない学生を対象に、大学生生活のアドバイスを受けることができる場としてラーニングcaféを活用しました。

参加者からは、「就活の話を開けてた

めになりました!」「バイトについて、挑戦してみようと思った」「多くの方と楽しく話げできた」といった感想をいただきました。

相談の場だけでなく、交流の場としても機能しており、LAからは定期開催できる企画にしたいという声も挙がりました。

(教育開発支援センター アドバイザースタッフ
佐藤栄晃)



ラーニングカフェの様子

学生ラーニングcaféの感想

今コロナの影響で大学に足を運ぶことができず、学生同士でコミュニケーションを取る機会が減ってしまいました。

そのような状況下で、ラーニングcaféを用いて学生同士の不安や悩みを共有する場を設けることにしました。

当日はLAが参加者のお悩みを聞くだけでなく、参加者同

士で悩みの共有・アドバイスをしあう場面も見られ、有意義な時間になったのではないかと思います。

今後のラーニングcaféも、このように様々な形で実施することができればと考えています。

(経済学部4年 下村茉由)

2021年度「FD café」を開催しました。

日程：2021年4月21日(水)、5月26日(水)、7月7日(水)

新任教員を主たる対象としたFD caféは、例年、4月に一度だけ開催していますが、今年度は三回に増やしました。一度きりのcaféに都合により参加できない教員のために、その機会を増やすとともに、caféで取り扱

う話題を広げようと考えました。第1回目は4月21日、第2回目は5月26日、第3回目は7月7日に開催しました。参加者はそれぞれ19名、5名、5名でした。春学期は遠隔授業が実施されていたため、caféはもっぱらオンライ

ン授業に関する質問や相談に応じるものとなりました。来年度以降も、FD caféの開催回数を三度ほどに増やす予定です。一度のみならず複数回の参加も歓迎です。

(教育推進部教授 三浦真琴)

「文書作成能力向上講習会」を実施しました。

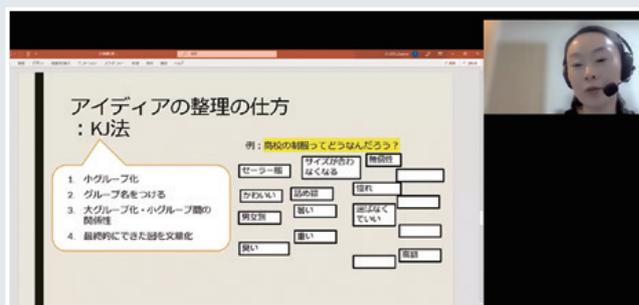
日程：2021年10月25日(月)、11月8日(月)、11月15日(月)

3月(入学前)・春学期に引き続き、SF入試で入学した1年生を対象に「文書作成能力向上講習会」をZoomで開催しました。大学生に必要な文書作成能力の獲得を目的とし、①テーマの設定②具体化の方法③文献の調べ方④引用方法⑤文章の組み立て方⑥根拠の提示の仕方⑦意見の提示の仕方を3回に分けて伝えました。

講習会后アンケートでは「普段からレ

ポート課題が多々あるため参考になる部分が多くあり、これからレポートを書く時に役立てたい」「ディスカッションは対面で行ってほしい」等の感想・要望がありました。来年度も要望を踏まえつつ継続していく予定です。

(教育推進部特別任用助教 藤田里実)



講習会の様子

教学IRプロジェクト報告

「2021年度春学期 授業・学生生活に関するアンケート」を実施しました。

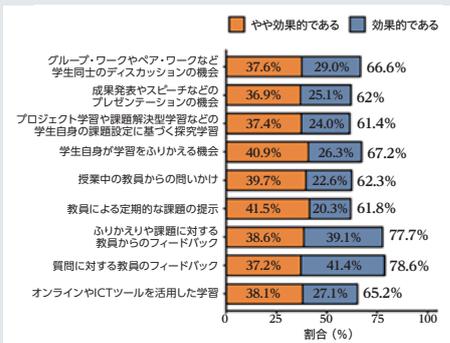
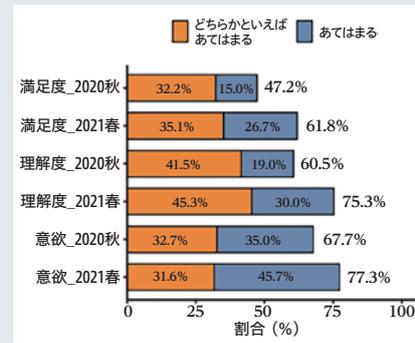
日程：2021年7月5日(月)～7月30日(金)

教学IRプロジェクトでは、2020年度春学期・秋学期に続いて、2021年度春学期の授業、学習ならびに学生生活に関するアンケート調査を実施しました。上記の期間に、学部生27,736名を対象として実施し、5,591名(回答率20.2%)から回答を得ました。全体、所属学部ごとの集計結果、特に重要と考えられる項目を抜粋し、これまでの調査との比較や学年ごとの集計などを含めた資料を作成・公開しました。こちら(<https://www.kansai-u.ac.jp/ir/>)からご確認いただけます。これらの資料に基づいて、大学執行部、各学部執行部、学外(ダイジェスト版)に向けて調査結果を報告するなど、改革・改善に資するフィード

バックを実施しています。主な結果として、対面授業に対する満足度や理解度、授業への参加意欲について、2020年度秋学期と比べて2021年度春学期は評価が高いことが示されました。また、学生の学習意欲

や学習効果を高める方法として、ふりかえりや課題、質問に対する教員からのフィードバックが最も効果的であると学生は考えていることも明らかとなりました。

(教育推進部特別任用助教 矢田尚也)



「2021年度遠隔授業に関する教員アンケート」を実施しました。

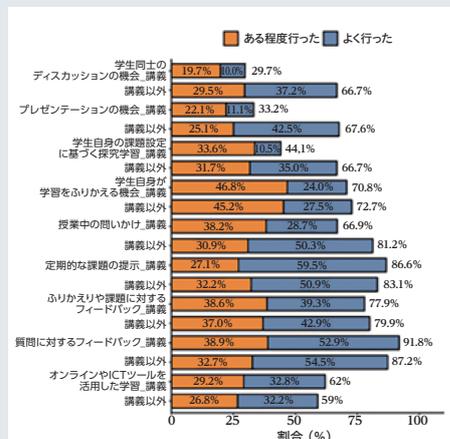
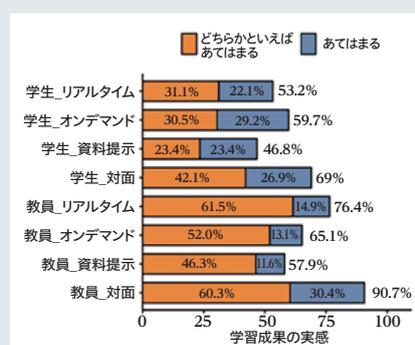
日程：2021年10月1日(金)～10月22日(金)

教学IRプロジェクトでは、2021年度春学期の授業を中心に、コロナ禍での遠隔授業等に関する教員アンケート調査を実施しました。上記の期間に、本学の専任教員と非常勤講師の計2,332名を対象として実施し、専任教員486名(60.4%)、非常勤講師78名(5.1%)から回答を得ました。集計結果を取りまとめ、学内・学外向けに公開するとともに、関係者に向けたフィードバックも実施しています。本アンケートの結果はこちら(<https://www.kansai-u.ac.jp/ir/>)からご確認いただけます。主な結果として、教員と学生の双方が、学生の学習を促すうえで対面授業が最も効果的と評価した一方で、遠隔授業については、教員はリアルタイム遠隔授業を、学生はオンデマンド配

信授業をそれぞれ高く評価していました。また、授業の取り組みとして、ふりかえりや課題、質問に対するフィードバックを、講義系・講義系以外に関わらず多くの教員が実施しているという結果が得られました。さらに、多様なニーズへの対応のために今

後も遠隔授業が活用できると感じている教員が多いことが示されました。

(教育推進部特別任用助教 矢田尚也)



ライティングラボの事務に携わり2年目を迎えている。

本学のライティング教育の中で特筆すべき出来事として、2010年に文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に文学部の取り組み「文学士を実質化する〈学びの環境リンク〉」が採択さ

れ、ライティングラボの前身とも言える「卒論ラボ」が産声を上げた。さらに2012年には、同じく文科省の「大学間連携共同教育推進事業」に採択され、全学展開の「ライティングラボ」へと発展していった。この時、連携大学の津田塾大学と共に掲げたテーマは「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援」。この「考え

(Think)、表現し(Express)、発信する(Convey)」というキーワードは、ラボの予約システムの名前の中に今も生き続けている。学生諸君には、ラボを活用しながらこの「TEC」が示す力の伸長を意識して様々な文章やプレゼンテーション資料の作成に取り組んでもらえたらと切に願っている。(ライカン君の友人)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching & Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 TEL: 06-6368-0230 FAX: 06-6368-1514
www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2021年12月15日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター